２０２２年度進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：2022 年　　9 月　　30 日
● 事　業　名　：地域巻き込み型共生社会の実現
● 資金分配団体　：公益財団法人長野県みらい基金
● 実 行 団 体　：特定非営利活動法人 Gland・Riche

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１‐１　ひきこもりや不登校、孤立した高齢者がより気軽に社会参加できる場所に生まれ変わる。	①　交通の便、利用しやすい居場所環境（定性・聞き取り調査） 利用者満足度（定性・聞き取り調査）	初期値からの向上　場所は２か所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々１０名以上。平日の毎日自由来訪型。	2022 年 4 月	ワサビの農場を２か所 確保した。両農場とも作業所及びトイレがついている。 陸ワサビの栽培もおおむね順調である。 生薬栽培は手が足りずに広げられないでいる。現在 8 名の若者が作業を継続している。	2

１－２　個々のニーズを把握し、就労の場への繋ぎや、居場所での居心地の良いサービスを提供できる。必要に応じて他機関に繋げることができるようになる。	①相談･対応件数(定量・件数) ②相談･対応内容(定性・聞き取り調査) ②　繋ぎ場所（定量・推移) 繋いだ後の状況（定性・聞き取り調査）	農業と貧困家庭、ひきこもり、高齢者、障がい者等の連携の仕方のシステム化	2022 年 5 月	引きこもりについて、家族の思いと当事者の思いが必ずしも一致しているとは限らない。当初は働くことを希望して訪れる方が多いが、本人の外に出ることができない理由はさまざまである。当事者の持っている「生きづらさ」に直接向き合って、医療につなげたり学校との間に介入したり、また、時間に余裕があるときは就労の体験をしてみたり、一つの事柄を解決するのではなく、当事者の生活レベル全体を底上げしていくような支援を行っている。連携先としては、医療機関、障碍者総合支援センター、社会福祉協議会、市町村である。 高齢者への支援は、単に高齢によって働けなくなったことだけが問題ではなく、家族の問題、跡取りの問題、終活に対する不安など多岐にわたっていることが分かった。これらの悩みを相談する場所の情報もなく、地域包括支援センターに相談しても、デイサービスなどの介護福祉サービスを利用するように勧められるばかりで、具体的な同行支援や悩み相談といったニーズに合致するようなサービスは見込まれない。高齢者と話をしていくうちに新たな問題として浮上してきた案件である。 相談件数　延べ 130 件 相談内容　引きこもりの解消、生活悩み相談、就労支援、子育て、介護相談。	2

１‐３　対象者へのアクセスとしてアウトリーチを更に多く行うことができるようになる。	①アウトリーチ件数（定量・実数把握） ②対象者が居場所につながった件数(定量・実数)	アウトリーチによる担当件数現在約 80 名 中信地区の推定引きこもり者数 6000 人	2022 年 5 月	アウトリーチは月平均で、新規 10 件、常時継続 10 件ある。アウトリーチに関しては、失敗が許されず、資質を持った支援員の育成が課題である。	2
１‐４　アウトリーチ行うことができる技術職がふえ引きこもり状態の人の減少につながる。	①講習会の開催回数と支援者の数(定量・講演会と支援者の実数) ②各支援者が持っている支援者数(定量)	要支援者は多いがどう支援してよいかわからないという支援者に対する支援	2022 年 5 月	講習会を行った。支援員の新規養成は進んでいないが、新規職員を採用し対応を行っている。	2
２‐１　安心安全に過ごせる場所で作業内容と作業工程を明確にする、個性や特性に合った就労システムが生まれる。	①対象者のニーズ（定性・聞き取り調査） ②対象者に合った作業とのマッチング数(定量) ③モニタリングの回数(定量)	新たなアセスメントとマッチング支援体制づくり	2022 年 5 月	活動主体が農業なので、活動に沿った参加者が主体になっている。アセスメントで農業以外の要望があっても対応できないでいる。 農業に関しては、時間、日数等柔軟に対応できている。	2

３‐１　地域の産業に携わることで雇用の機会、新たな地域の担い手を創出し、事業（農業連携）の継続力をつける。	雇用需要数(定量・雇用数 ） ②事業継続力・増加量(定量・実数)	作業工程別従事者の把握→見直し→向上（繰り返し）のシステム化を行う。就労者日々5名以上 農作業は天気や生育状況により刻々と変化し、なかなか決まったシステム化を行うのは難しい。	2022年5月	協力農家と連携し日々の作業が計画的にできている。 主事業であるワサビはコロナ渦で飲食店への売り上げが激減したまま回復しない。陸ワサビは、1年目は植えた時期が遅く、寒波の影響もあり予定収量より大幅に少なかった。次の作付けは順調に推移している。	3
３‐２　就労に携わる対象者が、自信と誇りを持って地元産業を守り育てていく機会が生まれる。	①対象者の意識変化（定性・聞き取り）	安曇野市、安曇野市周辺地域住民の参加協力者が増える。	2022年5月	作業を通して地域の農家や他従業員、ボランティアとかかわることにより、社会性を持つことができ、自分の生きている場所を確認していくことができるようになった。	2
４‐１　地域全体で一つの新しい生薬栽培プロジェクトが生まれる。	①実施農地個所数（定量・実数） ②試験栽培参加農家数（実数把握） ③関わる生活困窮者、ひきこもり、高齢者、障がい者人数（定量・実数）	試験栽培地 3 カ所、携わる困窮者ひきこもり、高齢者、障がい者等1か所につき2名以上	2022年5月	前年度末時点で苗の購入資金が足りず持ち越しとなっている。継続中のシャクヤクは順調。 当面はシャクヤクの株分けをしながら耕作免訴気を広げていきたい。 「当帰」の種をまいたが人手が足りず手入れが回っていない。	

４‐２　地域に新たな生薬栽培プロジェクトが生まれたことで、荒廃地が減る。	荒廃地の減少面積（定量）	安曇野市、安曇野市周辺地域住民の参加協力者が増える。	2022 年 5 月	行政から何人か農地委員を紹介してもらったが、あまり乗り気ではなくとん挫中。ただ、高年齢者農家の支援をすることで、耕作放棄を防ぐことにはつながっている。	3
４‐３　生薬の花を見たり花をかざる等で、新たな観光が生まれる。	①観光客数の推移（定量・実数） ②観光客の感想（定性・アンケート）	芍薬の咲くころに花摘み体験等のイベントの実施が定着する。芍薬の花を小中学校へプレゼントするなど。	2022 年 5 月	地元の方には花を楽しんでもらえたが、コロナにより観光客はほとんどいない。また、学校や施設なども部外者の出入りは難しく事業窯未定である。	3
５‐１　地域全体の事業という意識付けと、関わる障害者、ひきこもり、生活困窮者、高齢者等の存在や課題解決を、自分事に思って貰う機会（場所）が生まれる。	①関係者の意識変化（定性･アンケート） ②他県や他の地域、地元住民を対象とした見学会の回数（定量・実数）	見学者の随時受け入れ	2021 年 3 月	生薬栽培はまだ規模が小さいことや、農繁期になると作業に追われ付随する事業ができず、農閑期は見学希望はないことなどで生薬栽培が地域全体の事業という意識づけには至っていない。 休眠全体の事業では、地域の皆様の理解を得て陸ワサビハウスの近くに廃止された JA 支所の施設を借りることができ、地域住民の皆様の方が障害者、ひきこもりなどの存在や課題解決を自分事に思って貰う機会となっている。	3
６‐1 行政広報やメディアの協力、事業の取り組みを広く周知したことで、地域の事業だとの意識付けが生まれる。	地域住民の意識変化（定性・聞き取り調査）	地域の事業という住民意識の定着	2021 年 3 月	生薬栽培の事業は、規模が小さいこともあり注目度が低く、地域産業との意識づけには至っていない。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値 中山間地への生薬栽培は遅れている。
3.（任意）活動に関する報告
荒廃農地は再び畑作に向くように改善していくのに労力と時間がかかり、予定より遅れている。 提携農家は時間や量の縛りがなく、作業した時間を農家の用意したカレンダーに書き込むことで給料計算をしてくれる。各利用者の体調や起きた時間で働くことができるので大変好評である。 生薬栽培はシャクヤクのみの栽培となっているが、継続していきたい。 休眠事業を行ったことで、行政から Gland・Riche に事業を依頼されるようになった。

③ 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☑その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：ビニールハウスの道路側に掲示してある。
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） SBC、日本農業新聞、信濃毎日新聞。SNS は、フェイスブックでの配信を行っている 2.広報制作物等 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

【陸ワサビビニールハウスでの苗定植と育成作業】

陸ワサビのビニールハウスと定植作業、定植後